

教家本月清集における勝負付について

片山 享

教家本月清集には定家本月清集にみられない歌合勝負付が記されている。

本文に勝負付を有する諸本としては、教家本系で日本大学図書館本・書陵部桂宮本・神宮文庫本・松平文庫本・河野信一記念文化館本・書陵部御所本・刈谷図書館村上忠順書入本・蓬左文庫本、定家本・教家本混淆諸本として関西大学図書館本・書陵部東山文庫旧蔵本・太山寺本・東大研究室本（下巻のみの零本）がある。

ところで右の歌合勝負付について教家本系および混淆本は巻軸にその勝負数注記を記している。今、日大図書館本で示すと定数歌を収めた月請集上巻奥に

家百首歌合

勝五十五首 負十五首 持三十首

千五百番歌合

勝五十首 負廿八首 持廿二首

老若歌合

勝卅五首 負五首 持十首

已上

勝百四十首 負四十八首 持六十二首

とあり、部類歌を収めた月清集下巻奥に

春部 勝七首 負一首 持四首

夏部 勝八首 負一首 持四首

秋部 勝廿首 負九首 持七首

冬部 勝十首 負八首 持八首

恋部 勝十六首 負五首 持四首

雑部 勝十四首 負二首 持五首

旅部 勝十首 負五首 持二首

神祇部 勝一首 負一首 持六首

已上

勝九十三首 負三十二首 持四十五首

とある。

もつとも、右の

雑部 勝十四首 負二首 持五首

旅部 勝十首 負五首 持二首

とあるのは誤記であって、巻序からもまた実際の勝負付からも雑部→旅部、旅部→雑部となるのが正しく、日大本を除く諸本はすべてその順序となっている。

また嘗て松沢智里氏が指摘されたごとく下巻勝負付数の合計数勝九十三首は八十六首のあやまり、持四十五首は四

十首のあやまりで、諸本同じであるから勝負数注記を記したときの数え違いであろう。(注1)

上記のごとき勝負数注記を有する諸本としては日大図書館本・架蔵明応二年奥書本(ただし巻奥の老若歌合は勝五
十首・負五首・持二十二首とあり、合計数を記していない) 関大図書館本・書院桂宮本・神宮文庫本・松平文庫本
・河野信一記念文化館本・蓬左文庫本・太山寺本・書院御所本(上巻奥の勝負数注記のみで下巻奥の勝負数注記な
し) 書院部東山文庫旧蔵本(同右) 刈谷図書館村上忠順書入本(同右朱書き)・東大研究室本(下巻勝負数注記の
み)がある。

片山 享
本云
承久三年十一月廿六日書写早。
此合点者前大僧正釈阿入道兩人之点也。不可有他見歟。
権大納言 藤原 御判
とある次にこの勝負数注記が記され、次に
安貞二年十一月廿日以前宮内卿家隆自筆本書写早。合点之長短取寸法合移早。
以件本重書写之
文永五年十二月八日
とあるのであって、安貞二年、家隆自筆本書写の際にはすでにこの勝負数注記は存在していたわけで、これ以前に記
されたことが明らかである。

本云

承久三年十一月廿六日書写早。

此合点者前大僧正釈阿入道兩人之点也。不可有他見歟。

権大納言 藤原 御判

とある次にこの勝負数注記が記され、次に

安貞二年十一月廿日以前宮内卿家隆自筆本書写早。合点之長短取寸法合移早。

以件本重書写之

文永五年十二月八日

とあるのであって、安貞二年、家隆自筆本書写の際にはすでにこの勝負数注記は存在していたわけで、これ以前に記
されたことが明らかである。

ここで注目したいのは上巻の奥書勝負数注記に六百番歌合を指して「家百首歌合」と記していることである。教家本上巻目次には架蔵本に「調合百首」（内題同じ）とあり、日本本も目次は同様で内題には「歌合百首六百番」とある。このことから六百番歌合は月清集では「調合百首」というのが原題であって、日本本の内題に「六百番」と注したのは後人のしわざと思われる。したがって勝負数注記にわざ／＼「家百首歌合」と記すのは九条家以外の人、例えば家隆が記したとする可能性は極めて稀薄である。

次に定家本と教家本を比較してみると、教家本の歌合に対する意識は極めて濃厚である。例えば目次題において定家本

南海漁父百首

南海漁父哥合百首

西洞隠士百首

西洞隠士哥合百首

同無題五十首

同無題五十首哥合

とあり、内題においても定家本では「院無題五十首」とあるものは教家本では「老若哥合五十首」となっている。千五百番歌合は目次題では「院第三度百首」内題では「院第三度百首千五百番歌合也」勝負数注記では「千五百番歌合」となるのであって、これは老若歌合が目次題で「同無題五十首歌合」内題で「老若歌合五十首」勝負数注記で「老若歌合」となるのと軌を一にしている。定家本では目次題と内題は同一である（目次題および内題に「千五百」とある注記は後人の施したもの）から教家本の目次題・内題の不統一は歌合勝負付と関聯しておきたものであると考えられる。教家本はもともと良経が俊成・慈円に加点を乞うた合点本であって良経自身が歌合の勝負付を記したとは考えにくく、定家本に勝負付が記されていないこと、また、奥書の勝負数注記の記された位置からみて本文に歌合勝負付を施し、奥書に勝負数注記を記したのは奥書に「権大納言藤原」とある良経息教家であったと考えるのである。

ところで現行教家系諸本勝負付（勝負付に關しては混淆本をも含める。）と奥書勝負数注記および現行歌合勝負を比

較してみるとかなり問題とすべき点が多い。諸本勝負付数と現行歌合勝負を示すと次表のごとくである。

第一表 諸本勝負付数

夏 部			春 部			老若歌合			院第三度 百首			歌合百首			
持	負	勝	持	負	勝	者	負	勝	持	負	勝	持	負	勝	
4	1	8	3	1	5	8	6	36	20	25	54	29	15	56	日大本
3	1	6	3	1	5	7	6	37	21	25	54	26	14	57	関大本
												7	4	12	桂宮本
												7	4	11	神宮本
												7	4	12	松平本
2	1	5	3	1	4	8	5	37	22	25	52	26	13	51	河野本
4	1	8	4	1	4	7	7	36	21	26	52	28	15	53	御所本
4	1	7	3	1	3	9	6	35				25	14	56	刈谷本
2	1	6	4	2	5	5	5	29	20	25	53	28	15	57	東山本
												25	14	53	蓬左本
2	1	6	4	1	5	7	5	37				27	14	53	太山寺本
(1)	(4)	(2)	(2)	(1)	(1)	8	6	35	21	21	48	28	15	57	歌合

驕 旅 部			恋 部			祝 部			冬 部			秋 部			
持	負	勝	持	負	勝	持	負	勝	持	負	勝	持	負	勝	
5	2	14	4	5	16	1		1	7	8	13	6	9	19	日大本
5	2	13	4	5	12			1	7	8	12	6	8	19	関大本
															桂宮本
															神宮本
															松平本
4	2	13	3	5	13			1	7	8	12	6	8	19	河野本
5	2	12	4	4	15	1		1	6	6	15	6	9	19	御所本
6	2	12	3	5	14				7	5	14	6	9	20	刈谷本
4	2	14	4	5	17	1		1	7	8	14	6	10	19	東山本
												6	1	4	蓬左本
									8	6	12	6	10	17	大山寺本
(1)	(1)		(3)	(6)	(11)	(2)		(1)	(4)	(1)		(3)		(12)	歌合

神祇部			雑部		
持	負	勝	持	負	勝
6	1	1	2	5	10
6	1	1	2	4	11
6	1	1	2	4	11
6	1	1	2	4	11
			2	4	11
6	1	1	2	5	10
(1)				(1)	

右のうち秋篠末葉教賢僧正本系の玄旨本に属する桂宮本・神宮文庫本・松平文庫本は歌合百首の二三首のみに歌合相手作者名とともに勝負付を施しているが、教賢僧正本は架蔵本にみられるようにもともと勝負付を有さぬ本で、玄旨本が歌合を見合わせて若干の勝負付を施したものと思われる。

山 諸本のうち日大図書館本が勝負数の上でも内容的にも奥書勝負数および歌合勝負に近く、信頼度が高いので日大図書館本を中心に検討を加えることとする。

○歌合百首（六百番歌合）

奥書勝負数注記 勝五五 負一五 持三〇
 実勝負数 勝五六 負一五 持二九
 歌合実勝負数 勝五七 負一五 持二八

右のうち実勝負数と歌合勝負数とのくいちがいは、三八五が月清集に持とあり歌合では勝とあるのによって生じたもの、なお三八一・三九二は歌合の勝負と判詞とがくい違っており、判詞によって補正した数である。こうしてみると実勝負数と歌合勝負数の誤差は僅かに一首で、奥書注記に若干の数え違いの可能性を認めれば、ほぼ正確なもの

であると云えよう。諸本の異同についてみると、

三一・御所本持（諸本・歌合勝・以下（）内は諸本・歌合をさす）三三〇・刈谷本勝（持）三四〇・河野本・御所本勝（持）三四一・関大本勝・東山本勝持イ（持）三四六・関大本勝（持）三五二・河野本持（勝）三七八・刈谷本勝（負）三八七・刈谷本勝（持）

などで、これら諸本の異同は歌合勝負によって誤記とみるべきである。

○院第三度百首（千五百番歌合）

奥書勝負数注記 勝五〇 負二八 持二二

実勝負付数 勝五四 負二五 持二〇

歌合実勝負数 勝四八 負二一 持二一 無判一〇

院第三度百首勝負付について、最も不審なことは無判十首（八二一―八三〇）に勝負付が記されていることである。これは千五百番歌合巻五・六（夏一・二）の歌で、判者は土御門内大臣通親であるが、千五百番歌合では「雖有勅定薨去畢（注2）とあるもので通親逝去によって無判となり、したがって勝負を欠いだ歌である。かつその無判十首の勝負付をみると勝五首・負一首・持四首となっている。いったい院第三度百首の勝負付は極めて問題が多い。上述の無判十首の外に、日大本勝負付と歌合勝負の異同を歌番号で示すと、

八〇二・八〇三・八〇四・八〇五・八〇七・八〇九・八二六・八二七・八三二・八五二・八五八・八六〇・八六一
八六二・八六八・八七〇・八七二・八七三・八七四・八七五・八七六・八七七・八八一・八八二・八八六・八八八
八九一・八九四・八九八・八九九（第二表参看）

の三〇首が相違しており、さらに日大本に勝負付を欠く八八四は諸本負で、歌合は勝とあり、関大本にも負とあるところからおそらく日大本祖本得清本には負とあったとみてよく、これを加えると三一首の勝負の異同があり、無判十

首を加えると実に四一首の異同があることになる。

院第三度百首に勝負付をもつ諸本は日大本の他に関大本・河野本・御所本・東山本の四本であるが、日大本と諸本間の異同は比較的少なく、

八三六・河野本勝(負) 八六〇・東山本勝持イ(勝) 八七〇・河野本・御所本持(勝) 八七五・関大本・東山本勝(負) 八七八・関大本・河野本・御所本・東山文庫本・持(勝)

などである。この点からみて、諸本の異同は伝本過程で生じた異同であって、歌合との校合によって生じたものではないことが確認できる。

○老若歌合

享 奥書勝負数注記 勝三五 負五 持一〇

実勝負付数 勝三六 負六 持八

山 歌合実勝負数 勝三五 負六 持八 判欠一

群書類従本老若歌合百九十八番は判欠とあるが、月清集諸本勝負付はすべて勝となっており、これを認めれば日大本の実勝負数と歌合勝負数は完全に一致する。もっとも内容的には、

九〇六・負(歌合勝・太山寺本同じ) 九二六・勝(歌合持・太山寺本同じ)

の異同があり、また九四二勝(歌合勝持イ) 九五〇持(歌合負持イ)で九五〇は歌合の異本と一致している。諸本間の異同は

九〇二・刈谷本持(勝) 九〇七・御所本負(勝) 九一六・関大本・御所本勝(持) 九三八・東山本負・太山寺本勝(持) 九四四・河野本勝(負)

でいずれも誤写とみるべきものである。

以上月清集上巻定数歌の奥書勝負数注記と実勝負数との相関は院第三度百首でやや疑問があるが、概ね近似しており、諸本間の異同も伝本過程で生じた異同と考えられる。歌合勝負との関係は千五百番歌合では大きく相違し、このことは教家本勝負付の段階で大きな問題点があることを示している。

月清集下巻・部類部についてみると、まず奥書勝負数注記と日本本実勝負数との相関は次のごとくである。

春部

奥書勝負数注記 勝七 負一 持四

実勝負付数 勝五 負一 持三

夏部

奥書勝負数注記 勝八 負一 持四

実勝負付数 勝八 負一 持四

秋部

奥書勝負数注記 勝二〇 負九 持七

実勝負付数 勝一九 負九 持六

冬部

奥書勝負数注記 勝一〇 負八 持八

実勝負付数 勝一三 負八 持七

祝部

奥書勝負数注記 ナシ

実勝負付数 勝一 負〇 持一

恋部

奥書勝負数注記 勝一六 負五 持四

実勝負付数 勝一六 負五 持四

旅部

奥書勝負数注記 勝一四 負二 持五

実勝負付数 勝一四 負二 持五

雑部

奥書勝負数注記 勝一〇 負五 持二

実勝負付数 勝一〇 負五 持二

神祇部

奥書勝負数注記 勝一 負一 持六

実勝負付数 勝一 負一 持六(注2)

片山 享

春部について、日本本に勝負付を欠く一〇一五は関大本・河野本・御所本・東山文庫本・太山寺本に持とあり、また一〇一六も同右諸本に勝とあって、明らかに日本本の脱落と考えられる。なお、一〇一三は東山文庫本に勝イとあり、これは東大研究室本系による書入れであるが、同本は定家本・教家本混淆本で勝負付の所伝は明らかでなく、仮りにこれを入れれば奥書勝負数注記と完全に一致するわけであるが、奥書勝負数注記は合計数数え違りのあるごとく必ずしも絶対的正確さをもつものではないと思われ、東山文庫本の勝イは一応除外して考えたい。春部の諸本異同は一〇〇九・東山文庫本負(諸本勝)のみである。

秋部は勝・持各一首が実数少なく、一一三五・太山寺本勝一首、一一九〇・御所本持一首と他本に見えない勝負付

があるが、日大本の脱落か否かはにわかに決定しがたい。秋部の諸本異同は一一三四・刈谷本勝（負）一一五三・御所本勝（負）のみである。

冬部は奥書勝負数注記に比して実勝負数勝三首多く、持一首が少い。諸本異同は一二九六・御所本勝（持）また一三四・刈谷本・太山寺本持、東山文庫本持イナシとあり、一三九六・御所本は他本にない持の勝負付をもつ。

祝部は奥書勝負数注記にはないが、勝一首持一首の勝負付を有する。ただし一四〇八は日大本・御所本・東山文庫本のみであるが、題詞に「家歌合に春祝」とあり、関大本・河野本の脱落とみるべきである。

恋部の諸本異同は一四四八・関大本・河野本持（諸本・歌合勝）一四五一・刈谷本持（勝）一四五二・関大本・河野本・御所本勝（諸本負・歌合勝）一四五三・関大本・河野本・御所本負（諸本勝・歌合負）である。羈旅部は諸本異同は一四六八・刈谷本持（勝）のみ。雑部には一五一四・日大本・東山文庫本のみ負で関大本・河野本・御所本・刈谷本勝である。恋部の一四四八・一四五二・一四五三とともに伝本過程の上で注意すべき異同である。

以上月清集下巻部類部の奥書勝負数注記と実勝負数との相関・諸本異同の状況を述べてきたが、春部の日大本の脱落一・持一を補えば実勝負数は奥書勝負数注記と近似し、夏部・恋部・旅部・雑部・神祇部は奥書勝負数注記と完全一致する。冬部にやゝ不審があるが、奥書勝負数注記と実勝負数との相関は極めて高く、現行本勝負付の信頼度は上記に関するかぎり高いといわねばならぬ。

ところで月清集上、定数歌で見たごとく、部類歌においても現行歌合勝負と対比するとき大きな不審に突き当たざるを得ない。月清集に勝負付を有する現行歌合十種について述べると次のごとくである。

○仙洞十人歌合歌合

歌合歌十首中、神祇・庭松二首は月清集に勝負付を欠いており、一〇一〇・落花負・一〇六八・菖蒲負の二首が一致するのみで、他の六首はすべて歌合勝負と相異なる。すなわち一〇〇九・若草勝（たゞし東山文庫本のみ負）は歌

合では持、一〇六九・郭公持は歌合負、一一二七・浦月勝は歌合持、一一二八・山嵐負は歌合持、一二七四・暁雪持は歌合負、一二七五・水鳥勝は歌合では負となっている。

○建仁元年三月廿九日新宮撰歌合

撰歌合歌七首（一〇一一・一〇一二・一〇六三・一一一四・一二七二・一四〇四・一四五四）は勝負付と歌合勝負は完全に一致する。ただし月清集一〇六四・松下納涼（歌合題は松下晚涼、定家本松下晚涼）持、一一一五・湖上眺筍持、一二七三・雲似白雲持とある三首は新宮撰歌合にはとられていない。これら三首は歌合からみて同歌合の料十首内の歌であるが、撰歌には洩れた歌であって、これに勝負付が施されているのは不審である。

○建仁元年四月卅日鳥羽殿影供歌合

歌合三首中、暁山郭公一首は月清集になく、二首のみに勝負を付するが、一〇六五・海辺夏月の勝負付は持で歌合では負、一四五五・忍恋は勝負付勝で歌合では持となっており二首とも異っている。

○建仁元年八月三日影供歌合

歌合歌六首はすべて勝負付と歌合勝負が一致している。（一一二九・一一三〇・一一三一・一一三二・一四五九・一四六〇）

○建仁元年八月十五夜撰歌合

撰歌合にとられた歌合歌七首はすべて勝負付と歌合勝負が一致している。（一一一六・一一一七・一一一八・一一二二・一一二三・一一二四・一一二五）ただしここでも撰歌合に入らなかった一一一九・海辺秋月負、一一二〇・湖上月明負、一一二一・古寺残月負（ただしこの歌は日大本は勝負付なく、関大本・河野本・御所本・刈谷本・東山文庫本・太山寺本にあり、日大本の脱落か。）と三首に勝負付がある。

○建仁二年九月十三夜水無瀬殿恋十五首歌合

歌合歌十五首中十二首（一四三九・一四四〇・一四四一・一四四二・一四四四・一四四五・一四四六・一四四七・一四四八（ただし関大本・河野本持と異同あり）一四四九・一四五〇・一四五一（刈谷本のみ持と異同あり）は勝負付と歌合勝負が一致しているが、一四四三・暁恋勝は歌合では負、一四五二・寄雨恋負（ただし関大本・河野本・御所本勝）は歌合勝、一四五三・寄風恋勝（ただし関大本・河野本・御所本負）は歌合では負となっている。一四五二・一四五三はあるいは日大本の誤写であるかもしれない。

○建仁三年六月十六日和歌所影供歌合

歌合歌三首中、一一〇一・草野秋近勝、一一〇二・水路夏月勝の二首は勝負付と歌合勝負が一致しているが、一一〇三・雨後聞蟬勝は歌合では負である。

○建仁三年七月・八幡若宮撰歌合

撰歌合歌三首中、歌合勝負と一致するのは一一四四・秋風イ初秋（歌題初秋風）勝一首のみで、一一四七海辺鷹は勝負付持で歌合は勝、一四八七藪中恋（歌題藪中暮）は勝負付勝、歌合は負である。また撰歌合の料六首中、撰歌合に入らなかった一一四五・野径月に勝、一一四六・故郷霧に負、一五二四・山家松に持の勝負付がなされている。

○元久元年十一月十日春日社歌合

歌合歌三首、いずれも勝負付と歌合勝負は一致している。（一三三九・一五二五・一五九五）

○元久元年十一月十一日北野宮歌合

歌合歌三首、いずれも勝負付と歌合勝負は一致している。（一三四〇・一四六四・一四八九）

以上のごとく、月清集勝負付と歌合勝負を対比するとき、建仁元年新宮撰歌合・同八月三日影供歌合・同八月十五夜撰歌合・春日社歌合・北野宮歌合のごとく歌合勝負と月清集勝負付が一致するものもあるが、仙洞十人歌合・鳥羽殿影供歌合・和歌所影供歌合・八幡若宮撰歌合では両者は大きな相違をみせ教家本勝負付が必ずしも信頼できるもので

ないことを知るのである。しかも致命的なことは月清集上・院第三度百首における無判十首の歌に勝負付がなされ、月清集下・部類部において新宮撰歌合・八月十五夜撰歌合・八幡若宮撰歌合のすべての撰歌合について撰歌に入らなかった歌に勝負付を施していることである。これは諸本異同といった伝本過程における問題ではなく、勝負付がなされた段階での勝負付に対する態度に係わる問題であることが明らかである。例えば撰歌合に入らなかった歌の勝負付は新宮撰歌合では三首すべて持、八月十五夜撰歌合では三首すべて負、八幡若宮撰歌合三首は勝・負・持各一首で、そこにある作意を感じさせるものがある。

片山 享

本稿の最初に月清集の勝負付および勝負数注記を記したのは教家であつたろうことを推定したが、この推定が正しいとするならば、教家は父良経の家集秋篠月清集を整理する意図で歌合歌についてもその勝負付を思い立ち、おそらく良経の歌草や歌合などを見合せて勝負付を試みたと考えられる。この際に教家は勝負を欠いた歌に、恣意的に勝負を補つたのではなからうか。ともあれ教家本月清集における歌合勝負付は内容的に極めて不審多きものである。ただ右のように推測するならば、月清集部類部において現行歌合にみえぬ多くの勝負付をもつ歌は勝負付の内容の可否は別として歌合歌であつたと見ることは可能であるかもしれない。

教家本月清集における勝負付の問題点を纏めると、

- (1) 教家本月清集の勝負付および奥書勝負数注記は、良経息教家の施したものと推定される。
- (2) 現行教家本勝負付と奥書勝負数注記を対比すると院第三度百首や冬部のごとく若干相異なるものもあるが、概ね近似しており、相関性は高い。また諸本異同は比較的僅少であつてその異同は歌合との対校によって生じたものではなく伝本過程での誤写による異同と思われる。
- (3) 教家本勝負付と現行歌合勝負を対比すると特に院第三度百首・部類部撰歌合歌に不審が多く、教家本月清集の勝負付は必ずしも全面的に信頼できるものではない。

歌 合 百 首

三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二
勝	勝	勝	持	勝	勝	負	負	勝	勝	持	勝	負	負	持	勝	勝
勝	勝	勝	持	勝	勝		負	勝	勝	持	勝	同	負	持	勝	勝
				勝	勝	負		勝	持	勝	負	負	持	勝	勝	持
				勝	勝	負		勝	持	勝	負	負	持	勝	勝	持
				勝	勝	負		勝	持	勝	負	負	持	勝	勝	持
勝	勝	勝	持					勝	勝	持	勝	負	負	持	勝	持
勝	勝	勝	持	勝	勝	負	負	勝	勝	持	勝	負	負	持	勝	勝
同	勝	勝	持		勝	同	負	勝	勝	持	勝	同	負	同	勝	
勝	勝	勝	持	勝	勝	負	負	持勝イ	勝	持	勝	負	負	持	勝	勝
勝	勝	勝	持	勝	勝	負	負	勝	勝	持	勝	負	負	持	勝	勝
勝	勝	勝	持	勝	勝	負	負	勝	勝	持	勝	負	負	持	勝	勝
勝	勝	勝	持	勝	勝	負	負	勝	勝	持	勝	負	負	持	勝	勝

院 第 三 度 百 首																
八三四	八三三	八三二	八三一	八三〇	八二九	八二八	八二七	八二六	八二五	八二四	八二三	八二二	八二〇	八一九	八一八	八一七
負	負	持	負	持	持	持	勝	勝	勝	持	勝	勝	負	勝	勝	負
同	負	持	負	同	同	持	同	同	勝	持	同	勝	負	勝	同	勝
負	負	持	負	持	持	持	勝	勝	勝	持	勝	勝	負	勝	勝	勝
負	負	持	負	負	持	持	勝	勝	勝	持	勝	勝	負	勝	勝	勝
負	負	持	負	持	持	持	勝	勝	勝	持	勝	勝	負	勝	勝	勝
負	負	負	負	← 無 判 →									勝	勝	勝	持
千五百番歌合夏三 判者良経													千五百番歌合夏二 判者内大臣 難勅定薨去畢			

院 第 三 度 百 首															部			
八五一	八五〇	八四九	八四八	八四七	八四六	八四五	八四四	八四三	八四二	八四一	八四〇	八三九	八三八	八三七	八三六	八三五	歌番号	日本
持	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	負	勝	勝	負	負	負	負	負	負	関	大
持	同	勝	同	同	同	同	勝	負	同	勝	同	同	負	同	負	同	本	桂
																	宮	本
																	神	宮
																	本	松
																	平	本
持	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	負	勝	勝	負	負	負	負	勝	負	河野	本
持	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	負	勝	勝	負	負	負	負	負		御所	本
																	劉	谷
持	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	負	勝	勝	負	負	負	負	負	負	本	東
																	山	本
																	蓬	左
																	本	太
																	寺	山
持	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	負	勝	勝	負	負	負	負	負	負	歌合	
																	備	
																	考	

秋 部														夏部	部			
一一三〇	一一二九	一一二八	一一二七	一一二五	一一二四	一一二三	一一二二	一一二一	一一二〇	一一一九	一一一八	一一一七	一一一六	一一一五	一一一四	一一〇三	歌番号	
勝	勝	負	勝	勝	勝	勝	持		負	負	勝	持	勝	持	勝	勝	日本	
同	勝	負	勝	同	同	勝	持	負		負	勝	持	勝	持	勝	同	関大本	
																	桂宮本	
																	神宮本	
																	松平本	
勝	勝	負	勝	勝	勝	勝	持	負		負	勝	持	勝	持	勝	勝	河野本	
勝	勝	負	勝	勝	勝	勝	持	負	負	負	勝	持	勝	持	勝	勝	御所本	
同	勝	劣	勝	同	同	勝	持	同	同	劣	勝	持	勝	持	勝	同	刈谷本	
勝	勝	負	勝	勝	勝	勝	持	負	負	負	勝	持	勝	ニナイ	勝		東山本	
		負	勝	勝	勝	勝											逢左本	
勝	勝	負	勝	勝	勝	勝	持	負	負	負	勝	持	勝	持	勝	勝	太山寺本	
勝	勝	持	持	勝	勝	勝	持				勝	持	勝		勝	負	歌合	
関路秋風左二番	影供歌合二番 初秋曉露左	山嵐卅一番右	廿八番右 仙洞十人歌合浦月	河月似氷四十五番左	田家見月四十三番左	野月露涼卅七番左	建仁元・八月十五夜撰歌 合深山曉月卅一番左	() () ()	() () ()	(同歌合歌)	月下擣衣十五番左	月前松風七番左	合月多秋友一番左	建仁元・八月十五夜撰歌	(同歌合歌)	山家秋月左 新宮撰歌合十三番	和歌所影供歌合 雨後聞蟬二番左	備考

秋 部																	
一一五七	一一五五	一一五四	一一五三	一一五二	一一五一	一一五〇	一二四九	一二四八	一二四七	一二四六	一二四五	一二四四	一二三五	一二三四	一一三三	一一三二	一一三一
負	勝	負	負	勝	勝	勝	勝	持	持	負	勝	勝		負	勝	勝	勝
負	勝	同	負	同	同	同	勝	同	持	負	勝	勝		負	同	同	同
負	勝	負	負	勝	勝	勝	勝	持	持	負	勝	勝		負	勝	勝	勝
負		負	勝	勝	勝	勝	勝	持	持	負	勝	勝		負	勝	勝	勝
劣	勝	同	劣	勝	同	同	勝	持	持	劣	同	勝		同	同	同	同
負	勝	負	負	勝	勝	勝	勝	持	持	負	勝	勝		負	勝 <small>ニナシ</small>	勝	勝
負	勝	負	負	勝	勝	勝	勝	持	持	負		勝	勝	負			勝
									勝			勝				勝	勝
									海辺 <small>”</small> 七番右	(<small>”</small>)	(<small>”</small>)	八幡若宮撰歌合 二番初秋風左				故郷虫左 <small>”</small> 二番	旅月聞鹿左 <small>”</small> 二番

冬 部													秋 部			部	
一二八五	一二八四	一二八三	一二八二	一二八一	一二八〇	一二七九	一二七八	一二七七	一二七六	一二七五	一二七四	一二七三	一二七二	一一九〇	一一八九	一一五八	歌番号
	負	負		勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	持	持	負		負	持	日大本
	負	負		同	同	同	同	同	勝	勝	持	持	負			持	関大本
																	桂宮本
																	神宮本
																	松平本
勝	負	負		勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	持	持	負			持	河野本
勝	負	負	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	持	持	負	持	負		御所本
勝				同	同	同	同	同	同	勝	同	持	劣		劣	持	刈谷本
勝	負	負		同	勝		勝	勝	勝	勝	持	持	負		負	持	東山本
																	蓬左本
	負	負		勝	勝	勝	勝	勝	勝	勝	持	持	負		負	持	太山寺本
										負	負		負				歌合
										水鳥四十三番左	仙洞十人歌合曉雪 卅七番右	(新宮撰歌合歌)	新宮撰歌合風吹 寒草廿一番左				備考

恋 部										祝 部				部				
一四四八	一四四七	一四四六	一四四五	一四四四	一四四三	一四四二	一四四一	一四四〇	一四三九	一四二七	一四二五	一四一七	一四〇八	一四〇六	一四〇五	一四〇四	歌番号	
勝	負	勝	負	勝	勝	負	負	勝	勝	勝	持	勝	持			勝	日大本	
持	負	勝	負	同	勝	同	負	同	勝							勝	関大本	
																	桂宮本	
																	神宮本	
																	松平本	
持	負	勝	負	勝	勝	負	負	勝	勝							勝	河野本	
勝	負	勝		勝	勝	負	負	勝	勝	勝	持	勝	持			勝	御所本	
勝	負	勝	劣	同	勝	同	劣	同	勝			勝					刈谷本	
勝	負	勝	負	勝	勝	負	負	勝	勝 <small>ニナシ</small>	勝	持	勝	持			勝	東山本	
																	蓬左本	
																	太山寺本	
勝	負	勝	負	勝	負	負	負	勝	勝					持	持	勝	歌合	
旅泊恋五十番左	故郷恋四十一番右	山家恋卅七番左	鞆中恋卅三番右	暮恋廿八番左	曉恋廿番左	冬恋十六番左	秋恋十四番左	夏恋九番左	水無瀬殿恋十五番歌合 春恋一番左					庭松四十七番左	二番左	仙洞十八歌合神祇	祝廿七番左 新宮撰歌合寄神祇	備考

驕 旅 部					恋 部												
一四六九	一四六八	一四六七	一四六六	一四六五	一四六四	一四六三	一四六一	一四六〇	一四五九	一四五六	一四五五	一四五四	一四五三	一四五二	一四五一	一四五〇	一四四九
勝	勝	持	持	持	持	勝	持	勝	持		勝	勝	勝	負	勝	勝	勝
同	勝	同	同	同	持	勝	持	勝	持		同	勝	負	同	同	同	勝
勝	勝	持	持	持		勝	持	勝	持		勝	勝	負	勝	勝	勝	勝
勝	勝	持	持	持	持	勝	持	勝	持			勝	負	勝	勝	勝	勝
勝	同	同	同	持		勝	持	勝	持		勝	同	勝	劣	持	同	同
勝	勝	持	持	持	持イ	勝	持イ	勝	持イ	同イ	勝	勝	勝	負	勝	勝	勝
					持			勝	持		持	勝	負	勝	勝	勝	勝
					北野宮歌合忍恋 八番左			影供歌合二番 久恋左	影供歌合二番 都恋左		鳥羽殿影供歌合 忍恋七番左	新宮撰歌合遇不 逢恋三十四番左	寄風恋七十四番左	寄雨恋七十番左	河辺恋六十一番左	海辺恋五十八番左	関路恋五十四番左

教家本月清集における勝負付について

神 祇 部					部
一五九五	持	持	持	持	歌番号
一五九四	負	負	勝	同	日大本関大本
一五九三	持	持	勝		桂宮本
一五九二	持	持	勝		神宮本
一五九一	持	持	勝		松平本
					河野本
					御所本
					刈谷本
					東山本
					蓬左本
					大山寺本
					歌合
					備
					考
	持				
	一番石				

注1 古典文庫「秋篠月清集―教家本」解説二二五頁。

注2 有吉保氏「千五百番歌合の校本とその研究」(昭43刊)補注三〇一参照。

注3 日大図書館本の雑部・旅部の順のあやまりは補正して示す。

補注 歌番号は古典文庫「秋篠月清集教家本」による。なお、歌合勝負は六百番歌合は岩波文庫「六百番歌合、六百番陳状」

(昭11刊)千五百番歌合は「千五百番歌合の校本とその研究」(昭43刊)鳥羽殿影供歌合、和歌所影供歌合は古典文庫「未刊 中世歌合集上」(昭34刊)によりその他の歌合は群書類従本によった。